

漁港・漁場の施設の設計参考図書の改訂

水産基盤グループ

研究の背景・目的

安全・安心で持続可能な水産業の発展とそれによる水産物の安定供給の実現に向けて、水産業の拠点である漁港や、漁場の造成を進めるための施設の整備が行われています。漁港や漁場の整備のための設計作業を円滑に進めるため、県や市町村等の管理者や関連する技術者が参考とするための技術書、「漁港・漁場の施設の設計参考図書」（以下、設計参考図書と呼びます）が水産庁によって公表されており、漁港や漁場の様々な施設についての設計の考え方や解説が示されています。本年度、これまでの設計に関わる技術的知見の進展を反映させて、この設計参考図書が改訂されました。水産基盤グループでは改訂に関わる調査を進めてきており、ここではその内容を紹介します。

研究成果

水産基盤グループが設計参考図書の改訂において取り組んだ課題を図1に示します。主に藻場礁や魚礁が波や流れに対して安定に設置される質量を求める算定式、来襲した津波の流れが防潮堤（胸壁）に及ぼす力の算定式、津波の流れに対する防潮堤の保護（被覆）ブロックが安定に設置される質量を求める算定式、係船岸が備えるべき耐震性能の評価方法について調査を進め、設計参考図書の改訂のための工学的知見を提示しました。

波及効果

新たな知見を反映した設計方法を用いることで、施設の安全性向上とともに、施設によっては工事を行う上での経済性の向上が見込まれ、水産業の持続可能な発展に貢献していくことが期待されます。

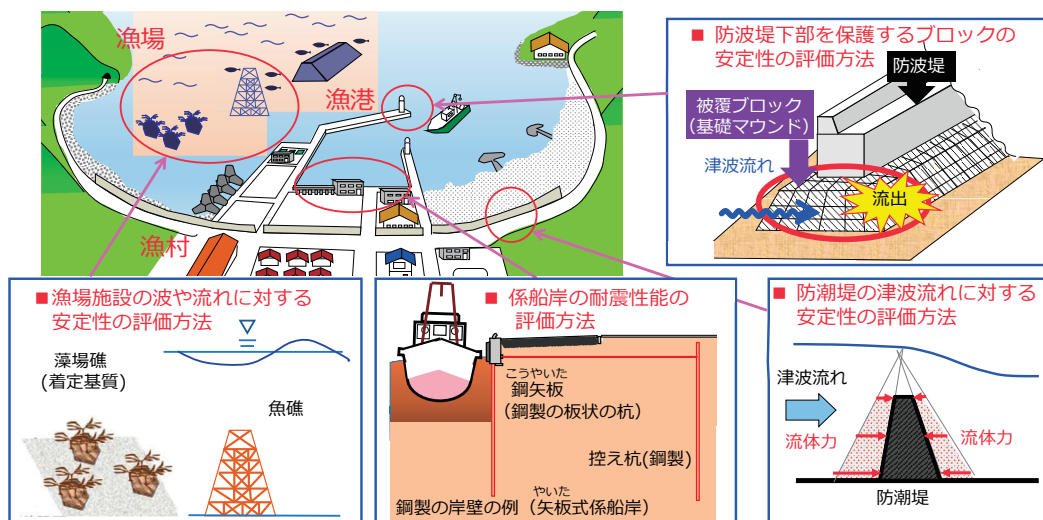


図1 水産基盤グループが設計参考図書の改訂に関わった主な分野

(本研究は水産基盤整備調査委託事業及び一般運営費交付金によって実施しました。)

(古市尚基・川俣茂・大村智宏・佐伯公康*・大井邦昭)

*現 管理部門廿日市拠点